



国際会長 (IP) Henry Grindheim (ノルウェー)

“Let Us Walk in the Light—Together” 「ともに、光の中を歩もう」

“Fellowship across the Border” 「国境なき友情」

会長 舟田 正夫  
副会長 古賀 健一郎  
書記 伊藤 誠彦  
会計 古田 和彦  
直前会長 金子 功

アジア地域会長 (AP) Tung Ming Hsiao (台湾)

“Respect Y's Movement”

「ワイズ運動を尊重しよう」

東日本区理事 (RD) 栗本 治郎 (熱海)

「広げよう ワイズの仲間」

“Extension Membership & Conservation”

湘南・沖縄部部長 (DG) 金子 功 (横浜)

「Y'sの絆を強め、広げよう」

“Let's Tighten and Expand the Bonds of Y's Men”

横浜クラブ会長 (CP) 舟田 正夫

「YMCA とともに！」

“Together, with YMCA!”

監事 松島 美一  
ブリテン 古賀 健一郎  
野村 郁雄  
担当主事 青木 一弘

### ＜今月の聖句＞

押川 幸男

「イエスは、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、シモンとシモンの兄弟アンデレが湖で網を打っているのを御覧になった。彼らは漁師だった。イエスは、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と言われた。二人はすぐに網を捨てて従った。」

(マルコによる福音書1章16節～18節)

### 今月のひとこと

### 「驚くべき通信技術の発達」

神村 浩正



我が家の息子は所謂ゼネコンの国際部に勤務しており、ブルネイ・シンガポール・クアラランプールなどに駐在しており、その機会を利用して現地を訪問したりしていたが、このほどパキスタンの首都イスラマバードに駐在することになった。パキスタン

といえばこれまでの東南アジア諸国より遠いところだし危険なところとの印象があるが、それなりの危険予防をしておれば大丈夫だとのこと。それにしても我々も結構な年齢だし流石にパキスタンを訪問してみようと言う気にはなれないが、簡単なことであればパソコンによるメール通信やスマホなどで連絡出来るので、離れて暮らしているという実感はない。

しかし Skype と称するパソコン通信でお互い顔をみながらの会話ができるのはいささか驚きであった。というのはパソコンの画面でとはいえお互いの顔を見ながらの会話は比較にならない親近感があるが、動画を交換しながらの通信は文字情報や静止画像の通信に比べて桁違いの通信量になる筈だが、これが国内ならともかく何千キロも離れたところ、しかもパキスタンのような発展途上国でも可能だとは期待していなかったのである。

私は1970年から1974年にかけて三菱重工の駐在員としてロンドンに駐在していたが、当時は現在のようにインターネットによる電子メール通信もなかったので、本社との連絡はテレタイプというローマ字による通信に頼っていたし、正月ぐらいいは両親に電話でもしようと思っても通信回線が混雑して全く通じなかった記憶が鮮明に残っているので、通信技術の進歩に驚いている。

最近ではスマホや携帯電話を持っているのは当たり前になっているが、ということは無数の電波や情報が飛び交っているということだと思うが、これがどうして混線することもなく相手に相互に届くのか私には不思議でたまらない。

### ＜2017年9月例会実績＞

在籍者	出席者	出席率	B F	
17名	メン 13名	81 %	切手	0 g
(功労)	メネット 0名	(メーキャップ	現金	0円
会員1	コメント 0名	1名を含む)	年度累計	
名を含む)	ビジター 0名		切手	0 g
	ゲスト 1名	前月修正出	現金	0円
	合計 14名	席率 %		

## <10月の行事予定>

### 強調月間「EMC/E, YES」

日	曜	時間	行事内容	場所
12	木	18:30	横浜クラブ第一例会	中央YMCA
14	土	10:00	チャリティーラン	臨港パーク
21	土	15:00	湘南・沖縄部 役員会	中央YMCA
26	木	17:00	横浜クラブ第二例会	中央YMCA

### 「9月例会報告」

舟田 正夫

日時：9月14日(木)18:30~20:30

場所：中央YMCA 501号室(司会:古田ワイズ)

出席者：青木、伊藤、今村、大高、金子、神村、古賀、斎藤、田口、野村、古田、舟田、松島(ゲスト)井上節子氏



卓話者の井上節子氏

卓話：「住んでみて分かったネパール」井上節子氏

ネパールの民族衣装に身を包み、額に赤いティカをつけて、ネパールについてその基本的な情報、

現地の人々の生活、JICA ボランティアとして考えたこと、さらに文字・数字にまで話が及んだ。

ネパールの正式名称は「ネパール連邦民主共和国」。北海道の約1.8倍の広さの国に多くの民族が住み、その言葉も民族により違う。但し、公用語はネパール語。主な産業は農業で、宗教はヒンズー教信仰が人口の80%位、カトマンズ盆地に生活するネワール族では、カースト制が厳しく生活の中に根付いている。

JICA ボランティアとして井上さんに与えられた仕事は障害児教育であった。

ネパールで仕事をしながら途上国への支援とは何かについて考えた。郷に入るとは郷に従う

ことが一番求められた支援のあり方だと気づいた。障害児が何かできた時に喜ぶのをみる時、また、地震(2015年4月)が起きた時に住民が互いに助け合っている姿を見ると感激したという。

最後に、ネパール語で「ナマステ」とはおはよう、こんにちは、を意味する。

### 「湘南・沖縄部第21回部会報告」

金子 功

湘南・沖縄部第21回部会は9月16日(土)「Y'sの絆を強め、広げよう」の主題のもと、山下町のワークピア横浜で開催された。台風18号の接近により、天候が危ぶまれる中ではあったが、天気も何とか持ちこたえ、栗本治郎理事他8名の区役員、在京クラブのビジターを含め総勢62名が参加した。

第一部の開会礼拝は松島美一部書記の司会のもと、青木一

弘部担当主事の聖書朗読、祈禱に引き続き、「九州北部豪雨緊急支援のため」に献金が捧げられた。

第二部は部会である。金子功部長の開会点鐘に始まってワイズソング、信条を唱和、部長挨拶と続いた。金子部長は部長公式訪問、第1回部評議会開催等これまでの部の活動について報告したあと、会員増強運動を最大の課題としなければならないことを強調した。これは言うまでもなく、栗本理事の今年の方針である。挨拶は栗本理事と田口努横浜YMCA総主事からいただいた。

第三部は部会の中心的プログラムである記念講演である。今年の講演者は、

「幸せなら手をたたこう」の作詞者木村利人氏であった。講師紹介に当たって、金子部長は講師の経歴は紹介文に委ね、木村利人氏を講師として招くに至った経緯を述べた。

講演の内容は、タイトルの「戦争、平和、いのちを考える」に相応しく、早稲田大学在学中に参加したYMCAのフィリピンでのワークキャンプの経験を土台に、タイ・チュラロンコン大学、ベトナム・サイゴン大学で教鞭をとる中で「いのち」の大切さを突き詰め、「新しいいのちの価値判断を巡る学問分野」バイオエシックス(生命倫理)を体系化するに至る経緯を述べた。ベトナム戦争中に米軍の枯葉剤作戦で使用された猛毒ダイオキシンの影響を今に伝える10分間のDVD映像は衝撃的なもので、「いのち」の大切さを考えるには十分すぎる程の印象的な講演であった。

第四部は懇親会。司会者小松伸史厚木クラブ会長自身によるトランペットのファンファーレに始まって押川幸男ワイズ(横浜クラブ)の食前感謝、加藤利榮ワイズ(とつかクラブ)の乾杯と続いた。食事・歓談のあい間には区役員、メネット委員会、来年の第21回沼津東日本区大会のアピールがあった。木村利人ご夫妻も懇親会に参加してくださり、最後には参加者全員が手を取り合って大きな輪を作り「幸せなら手をたたこう」を歌って盛会のうちに閉幕した。

閉会点鐘と挨拶は、当日最も遠くから参加した沖縄那覇クラブの屋良政旦ワイズで、予定通り午後7:00に閉会した。

横浜クラブからの参加者は青木、伊藤、大高、押川、金子、古賀、田口、舟田、古田、松島であった。



記念講演中の木村利人氏



部会参加者一同

## 「第2回横浜YMCA幼児室内サッカー大会」

大高 治

9月16日(土) 横浜つづきクラブと横浜クラブの協賛による幼児室内サッカー大会が中央YMCA体育館で開催されました。4歳から6歳までの幼児が1ゲーム7分、6回もの熱戦を繰り広げました。途中休憩を取れないこともありましたが、怪我もなく全員元気でボールを追いかけてました。



今年は15名のチビっ子が熱気のこもったプレーを展開しました。幼稚園のイベント等と重なり、昨年の24名から減りましたが、団子状態になろうともボールに触ろうとする意欲、スペースを見つけるやゴールを目指してのドリブル、スローインからでもゴールを狙うたくましさを見せてくれました。

2002年のFIFAワールドカップで日本代表のキャプテンを務めたDFの森岡隆三選手は現在41歳、横浜YMCAの小学生サッカークラス出身です。彼は30年位前にこのサッカー教室に通っていたのです。幼児のサッカー教室も20年以上の歴史になるようです。

開会式は横浜つづきワイズメンズ&ウィメンズクラブの今城宏子会長による暖かな激励の挨拶で始まり、横浜ワイズメンズクラブの舟田正夫会長による労いの言葉で閉会となりました。チビっ子たちには、Caring, Respect, Honesty, Responsibilityの4つのトロフィーの他、参加者全員に金メダルが授与されました。

来年も参加出来る子もおれば、卒業してしまう子もいることでしょう。だが、今後もサッカーを続け、森岡選手に続けとU-15、U-18、サムライJapanのメンバーへと大きく成長していく子たちが出てくることでしょう。その成長を見守りたいものです。

横浜つづきクラブからは6名、横浜クラブからも舟田、金子、古田、古賀、大高ワイズの5名が参加しました。

## 「出藍の誉れ」

松島 美一



私は1982年4月に九州大学助教授から東京の大学に転任しました。Kは赴任後に私が指導教授として最初に博士の学位を取得した女子学生でした。その後Kは私の主催していた研究室の助手、講師となり私の研究教育生活を支えてくれました。私は2000年3月にこの大学を定年退職しました。私の退職後、Kは私の後任教授となりました。研究テーマはKによって引き継がれ、私の予想を超えて発展することになりました。

最近Kから大きな学会の学術賞を受賞することになったと連絡がありました。私自身はこんなに大きな賞を受けたことはありません。まさに「出藍の誉れ」です。中国の古典にある「藍から採った青色は、藍よりも青い」と言う文に由来するこの言葉は、弟子が師よりも勝り優れる場合に使われます。

今まで「出藍の誉れ」の師の立場の人ほどどのような気持ちか考えたこともありませんでした。なってみると「非常に嬉しい」のです。受賞の本人より嬉しいのではないかとさえ思います。当人であつたら周囲の目や思惑が気にかかるかも知れませんが、私はひたすら喜び、はしゃぎ、自慢することが出来ます。このニュースを聞いた日、私は家族を相手に大いに自慢し、独り祝い酒にしたたか酔いました。

## 「近況報告」

大江 浩



今年度から始まった「日本YMCA中期計画2020(2017-2020)」の表紙に、「YMCAブランドの革新による胎動から躍進へ」と書かれています。そしてこの中期計画の核となる「YMCAブランドの革新」の一環として、今年10月1日より、全国各地のYMCAが、新ブランドのロゴ・スローガンに基づいて会館の看板・サインのリニューアルをはじめあらゆるマーク入り表出物や媒体の刷新を進めています。もちろん最も大事なものは、「外側」ではなく、新ロゴ・スローガンのベースにあるブランドコンセプトのValue(価値)―「みつかる。つながる。よくなっていく。」(英訳:“Encounter, Connect, Transform”)の実現に向けた内なる革新です。

新ブランドロゴの愛称は「ポジティブY」です。それは「ポジティブネット」のある豊かな社会の創造という理念を表すものです。「ポジティブネット」とは、「互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる、善意や前向きな気持ちによってつながるネットワークのこと」です。新ブランド推進のために制作された「YMCAブランドブック」には、「ひとりがよくなると世界はきっと変わる」と書かれています。YMCAブランドの「再生」ではなく、「新生」に向けた「革新」は、一人ひとりが内側から変わることから始まります。

さて今、世界では、「テロ」やネオナチ、そして「トランプ現象」に象徴されるように、過激な言葉で相手を攻撃し、握りこぶし(力)によって屈服させる対立構造がエスカレートしています。そして私たちの身近なところやネット社会でも排除・不寛容や誹謗中傷に満ち、ネガティブな言葉が氾濫しています。私たちが描いていた平和な共生社会は、関係性の危機によって崩れ去っていくのでしょうか？

いえ、このような時だからこそ、人と地域に根差し、世界に繋がるYMCAが、ワイズの皆さんと共に、決して希望を捨てず、「ポジティブY」を目指して力を尽くす時なのだ、と示されているように思います。「YMCAブランドブック」には、こうも書かれています。「『よくなる』の連鎖は、やがて社会や世界を変えていくチカラとなっていく。そしてきっと平和を形にしていく原動力となっていく」と、「よくなる」の連鎖は、私・たちから、始まります。

## 第二例会報告

古賀 健一郎

日時:9月28日(木)17:00~18:30

場所:横浜中央YMCA501号室

出席者:青木、伊藤、大高、金子、古賀、舟田、松島

★ 強い義務感をもとう 義務は全ての権利に伴う ★

協議・確認・検討事項

- ① 今後の行事予定の確認
- ② 横浜クラブの「九州北部豪雨緊急支援募金」(東日本区理事経由日本YMCA同盟からの要請)については募金期間の制約(9月30日まで)もあり、急遽、第2例会出席役員が6,000円の寄付をすることとした。
- ③ 10月14日(土)チャリティーランへの支援—従来通り2チーム支援とボランティア参加者(みなとみらい臨海パーク「汐入りの池」8時集合)確認。
- ④ 東日本区会員増強主任からのインビテーションキャンペーンについて協議。湘南・沖縄部としては佐藤節子(厚木)会員増強事業主査の呼びかけで10月5日にEMC委員会が開催されるとの報告がなされた。古賀会員増強担当が出席予定。
- ⑤ 十勝ジャガイモの配達計画を例年通りの実行として確認。
- ⑥ 11月23日(木・祝)YMCAウェルカムフェスタの実施詳細は10月の第二例会で協議。
- ⑦ 卓話予定者
  - ・10月YMCA日本語学科 インドネシア留学生2人 アンナスさん、ハンナさん
  - ・11月YMCAブランディングについて(YMCA職員に依頼)
- ⑧ 横浜クラブ忘年会—12月14日(木)18時 横浜中華街広東飯店にて決定。
- ⑨ 沖縄YMCA55年史」出版協力の募金依頼(募金期限11月30日)について詳細を確認して次回協議。
- ⑩ 10月号ブリテン編集計画
- ⑪ その他



担当主事 青木 一弘

■第8回 リーダーズデイのご案内

横浜YMCAでリーダー活動をされている方、されていた方が1年に1度富士山YMCAに集まり交流をします。「したい何かが見つかり、誰かとつながる。私がよく、かけがえのない場所。」それが、リーダーズデーのコンセプトです。富士山YMCAを1度訪れてみませんか？

日程：10月21日(土)～10月22日(日) 1泊2日  
 会場：富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ  
 静岡県富士宮市原1423 TEL: 0544-54-1151  
 参加費：6,000円 ※参加費は宿泊費・食費(夕食・朝食・



昼食分)が含まれています。

交通：貸切送迎バス(横浜駅北改札口前 午前8時30分集合) ※自家用車・電車を利用される方は交通費自費となりますのでご了承ください。

内容：リーダーズアクティビティ、バーベキューパーティ、リーダー研修・プログラム報告会

申込：詳しくは、各YMCA担当者まで、お問い合わせください。

■YMCAブランディング・プロジェクト

全国のYMCAでは、この10月から、新しいブランドロゴへの切り替えを開始します。このブランディングを通して、YMCAを知らしめ、会員その他の方々との約束を守ることによりブランド価値を高め、YMCAの多様な活動や事業とともに、夢や希望をこの統一したロゴによって伝えていきます。これからもたくさんの出会いがあり、そこから繋がる可能性は無限にあると思います。人との出会いと繋がりに感謝を忘れずにYMCAの活動を通じて、これからもたくさんの方たちと共に歩んでいきたいと思っています。今後も皆様のご協力をよろしくお願い致します。

10月例会プログラム

- 日時：10月12日(木) 18:30～20:30  
 場所：横浜中央YMCA 501号室  
 司会：松島ワイズ
1. 開会点鐘および挨拶 . . . . . 舟田会長
  2. ワイズソング・ワイズの信条 . . . 全員
  3. 今月の聖句 . . . . . 押川ワイズ
  4. ゲスト・ビジター紹介 . . . . . 舟田会長
  5. 食前感謝 . . . . . 押川ワイズ
  6. 食事
  7. 卓話 「インドネシアについて」  
 YMCA日本語学科インドネシア留学生  
 アンナスさん、ハンナさん
  8. ビジネス・報告 . . . . . 舟田会長、他
  9. 閉会点鐘 . . . . . 舟田会長
- 例会報告：古賀ワイズ

11月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
9	木	18:30	横浜クラブ第一例会	中央YMCA
18	土	15:00	第2回部評議会	中央YMCA
23	木	9:00	ウェルカムフェスタ	中央YMCA
30	木	17:00	横浜クラブ第二例会	中央YMCA

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA青木一弘にご連絡下さい。

メール [aoki\\_kazuhiro@yokohamaymca.org](mailto:aoki_kazuhiro@yokohamaymca.org)

電話 045-641-5785